

	<p>for your dream—</p> <h1>進路通信</h1> <p>令和元年第2号</p>	<p>令和元年5月29日</p> <p>都立武蔵野北高等学校 進路部</p>
---	---	--

中間考査は終わったが…

毎年、この時期に述べていることを再掲しよう。最初の定期考査が終わった時の心構えについてだ。



<1年生>

この試験で2つのタイプの人に分かれる。一つはこれまで経験したことのないような成績となってショックを受ける人、もう一つはそれなりの成績を取って、「高校なんてこんなものか」とたかをくくる人だ。前者の人は危機感を持ってこれから頑張るだろうが、後者の人は慢心が生じて不勉強になってしまうケースがある。しかし、仮に今回成績が良くても、それは中学時代の学力によるところが大きい。**これから本格的な高校の授業に入ると、ついていけなくなる人が出てくるので注意が必要だ。**

<2年生>

2年生にもなると学校にも慣れて、余裕が出てくる人もいるだろう。しかし、この時期に気をつけなくてはいけないのは「中だるみ」だ。いったん「中だるみ」に陥ってしまうと、挽回するのに時間がかかってしまう。中には挽回できないまま受験を迎える人もいるようだ。こうした**「中だるみ」に陥らないためにも、「凡事徹底」を心がけよう。**授業をきちんと受けているか、小テストに取り組んでいるか、提出物を出しているか等、日ごろの学習態度を見直してみるのが大切だ。

<3年生>

いよいよ3年になって(最後の)部活や行事、学習に忙しい日々を送っていると思う。塾や予備校に通い始めた人もいるだろう。しかし、効率のみを考えて、予備校に依存してしまうのは危険だ。様々なデータでも、定期考査の成績と偏差値には相関関係がある。つまり**「学校の勉強を頑張っている者は偏差値も高い」**のだ。入学定員厳格化によって入試が厳しさを増しているのは周知の通りだ。何とかなるだろうという安易な気持ちを捨てて、気持ちを引き締めてほしい。みんなの意欲を喚起するためにも、卒業生の言葉を紹介する。(昨年までの記事に今年のを追加した)

頑張れ3年生！先輩たちの言葉

「進路の手引き」から3年生にふさわしいものを抜き出してみた。先輩たちが体験から編み出した言葉なので、1～2年生もぜひ読んでほしい。

■友達が次々と国公立から私立に変えて教科を捨てていきましたが、そんな中で私が諦めなかったのは、「楽しいから」でした。全部好きだし、面白い。それが何よりの原動力だったと思います。

■1～2年のときの英単語テストは欠かさず勉強すること。これは受験期になって思い知らされます。私は毎回9割以上取っていたので、難関大向けの単語をさらに覚えていく余裕ができました。

■空いている時間を有効に使うことで、まわりの受験生に遅れをとらなかつた。

■部活や行事に没頭することも大切。そこで鍛えた精神力ややりきる力が、必ず受験に役立ちます。

■振り返ってみると、本当に受験は諦めないことが大切だと思いました。

■自分の弱さに一晩中、泣いたこともありましたが、志望を下げれば、こんなに辛い思いをしないで済むんだろうなと思ったり

しました。でも、周りのみんなに支えられて「絶対に負けない!」「()大に行くんだ!」と強く思うことができました。

■頑張らないと気がすまなかつた。そんな自分のことをちょっとだけ好きになれた。

■受験を乗り越えると、ものの見方が変わってきます。いろんなことを学んで人間として成長できたと思います。

■本やニュースなどを見ていろいろな知識や興味を深めてほしいなと思います。例えば難しいテーマの英語の長文を読解する時に、テーマそのものに関する知識が少しでもあると格段に読みやすくなります。このような知識を身につける時間は、受験期にはありません。1～2年のうちに、新聞・本など幅広いテーマのものをたくさん読んでおくことです。

■1番大事にしていたのは、学校の授業を中心にしようと思っていたことです。学校中心の生活ができるという条件なら、塾は活用してもいいと思います。

■授業では予習、小テスト対策、宿題、復習等々、授業ごとに決まった流れが存在します。それらをきっちりこなすことが、私は何より重要だと思います。

■学校での勉強、課題は受験に必要なことばかりです。授業のひとつひとつは一見、バラバラに見えますが、ある教科で学んだことが他の教科の内容を考える上で参考になることもあります。だからこそ、自分で勝手な線引きをせず、学校の学習にきっちり取り組むことは不可欠です。

駿台大学入試研究会報告

5/17駿台の大学入試研究会から、みんなに知っておいてほしいことを簡単にまとめておくので、ぜひ読んでほしい。

・現在の高2生から始まる共通テストについて、変更点については何度か述べてきたが、次の点にも注意してほしい。

「共通テストの英語の成績に加えて、英語資格・検定試験の成績を活用する」「調査書の様々な活動等、主体性評価を重視する動きがある」

・共通テストはセンター試験の延長線上にあるので、全体の90%はセンター試験と同じ。マイナーチェンジなので、そんなに心配することはない。ただし、難易度がアップする予定。(平均が60%→50%)演習量の多い受験生が得点できる。

・スマホの使い過ぎは不合格への道、現役合格者のスマホの使用状況は以下の通り。
使ったのは連絡のみ(35%) 電源を切るようにした(13%) 息抜きで音楽や動画を見た(0.4%)←注目!

・模試の結果が返ってきたら、設問別に全国平均との差を比べて、復習すべき分野を把握することが大切。



「大学入試英語成績提供システム」共通ID発行について

「何だよ、それ?」と思った人も多いと思うが、要は英語の外部試験を大学入試センターが一括管理して各大学へ提供するシステムのことだ。そのために、以下のスケジュールでIDが発行されるらしい。2年生は今年の11月だ。その時期がきたら再度連絡する。

張りつけ資料のため割愛します。

評定平均値って何？

評定平均について知っているだろうか。大学を受験する際、調査書に記載されるもので、推薦やAO等、試験を課さない入試では、この評定平均値が合否に大きく影響する。算出の仕方は「進路の手引き」に載っているが(1年生には6月に配布する)、確認のために転載しておく。

全体の評定平均値は、すべての教科・科目の評定の合計数を、すべての「評定の数」で割った数値。(少数第2位を四捨五入)

簡単に言えば、全科目の評定の合計を全科目数で割ったものだ。仮に「国語5・数B4・物理3・世界史2・体育3」だった場合は、 $(5+4+3+2+3) \div 5$ (評定の数) $=3.4$ となる。この「全体の評定平均値」を表のようにA~Eの5段階にあてはめたものが「学習成績概評」となる。**国公立大学や難関私立大学の推薦入試を目指す場合は、Aを取ることが望ましい。**なお、現役生の場合は、高1から高3の1学期までの評定をもとに計算する。

- | | |
|---|---------|
| A | 5.0~4.3 |
| B | 4.2~3.5 |
| C | 3.4~2.7 |
| D | 2.6~1.9 |
| E | 1.8以下 |

各教科の評定は、中間・期末考査だけではなく、小テストや提出物等すべてを加味して算出されるため、日々の学習を着実に、かつ丁寧にやる必要がある。

新テストを控えて、推薦やAO枠を広げる動きがあるので、できるだけ評定平均値を上げておいた方がいい。受験の時になって「ちゃんと勉強をしておけばよかった」と後悔しないよう「凡事徹底」が大切だ。



今年1年をどう過ごすか？ 1、2年生編

① 自分の将来について折に触れてしっかりと考え、間違いのない進路選択につなげる。

1年生は「進路」といわれてまだ漠然としており、具体的なイメージが持っていないと思う。本校の場合、ほぼ全員が大学(それも難関大学)をめざすことになると思うが、大学には「普通科」はなく、「法学部」「文学部」「国文学科」「理学部数学科」といった学部および学科を選択しなければならない。そして、その学部・学科によって、3年進級時に選ぶべき選択科目は異なってくる。したがって、**2年の秋頃には自分の進む道をハッキリと決める必要がある**、そのためには入学直後の1学期から折に触れて考えていくことが求められる。

2年生は、秋の選択科目希望調査に向けて、「どの学部・学科に進むのか」「何を学ぶのか」と「どの大学を選ぶのか」をいよいよ具体的に考える必要に迫られる。残された時間が少なくなっているが、結論を出すために十分に考えを深めてきているだろうか。

自分の将来について考えるという場合、「弁護士になりたい」(→法学部)、「医者になりたい」(→医学部)、「看護師になりたい」(→看護学部)、「小学校の先生になりたい」(→教育学部)など、職業から大学の学部・学科を選択するという方法もある。しかし、将来どんな仕事に就くか、まだ全然イメージできないという人が多いだろう。その場合は、**4年間自分が興味を持って学べるものを選ぶとよい**。しかし、「何に興味があると言われてもよくわからない」という人もいよう(特に1年生)。

これを考える材料は、じつは高校生活のあらゆる場面に転がっている。たとえば、普段の授業で「歴史の授業を聞いていたら、歴史に興味を湧いた。大学で史学科に入ってもっ



と勉強したい」という経験をするかもしれない。国語の課題で新書を読んでいて、「有名な生物学者が書いた新書を読んだ。おもしろい植物について触れていて、興味が湧いた。農学部に行こうと思う」と考えることもありうる。また、個人面談をはじめとして教員と話をする中で、ヒントが与えられることもある。TVのニュース番組やドキュメンタリー番組、新聞記事などから社会の第一線で働いている人の姿に触発されて何かしらの職業にあこがれを抱くようになる人もいよう。

また、2年生を対象に行われる「大学模擬授業」や夏休みに多くの大学で開催されるオープンキャンパスもいい刺激になるはずだ(オープンキャンパスについては、今後の「進路通信」に記載予定)。

「なんでも見てやろう」くらいの意欲を持ってアンテナを広く張り巡らして、自分の可能性をさぐることを心がけてほしい。

また、大学進学に向けて、1年生のうちから入試制度(入試のしくみやそのために必要な準備など)についてしっかり研究して理解しておくことも重要だ。

閑話休題「私を大学に通わせてくれた母へ」

(ネットで見つけた話です。フィクションかもしれないけれど心に残ったので紹介します)

あなたは私を産むまでずっと父の暴力に苦しんでいましたね、私が一歳の誕生日に、借金を抱えたまま父が自殺。借金を返すために昼はパート、夜は居酒屋で仕事の毎日でしたね。

保育園では遠足のおやつは雑穀のおはぎでした。小学校の給食費を払えない月もありましたね。修学旅行のおみやげはご当地キーホルダーだけでした。

中学の制服は親戚のおさがりでしたね。

無理を承知で大学行きたいと頼んだ時、あなたは反論しませんでした。

ごみ処理場から、捨てる予定の参考書をもらいに行きましたね。

お金がかかるから私立は受けられず、国立専願受験でしたね。

センター試験の前日には初めて特上寿司を食べさせてくれました。

センター試験に失敗したけど、あなたは最後まで諦めないよう励ましてくれました。

そして私は気持ちを切り替えて勉強して、なんとか後期に合格することが出来ました。

あなたはずっと「おめでとう、おめでとう」と泣き続けてくれました。

でも、あなたは入学の準備の時に急に倒れて病院に運ばれました。

医者が、癌が全身に転移していてこれから一週間が峠だと告げましたね。

私がただただ泣き続けている時にあなたは

「この体の傷や癌の一つ一つが、あなたを育てあげた立派な勲章なのよ」と微笑みながら言いました。

あなたは最後まで泣くことも苦しむこともなく、静かにこの世を去りましたね。

今私は医者になるために毎日一生懸命に勉強しています。

あなたの命を奪った癌に苦しむ人々を治療して助けたいから

私が育った環境は決して恵まれてはいなかったけれど、あなたに生まれ、育てられて本当によかったよありがとう、お母さん。

<https://ailovei.com/?p=34481> より